

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 5 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3 4 9 0 2 0 0 4 4 5		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホームほのぼの苑五日市八幡		
所在地	広島市佐伯区八幡5丁目16-10 (電話) 082-927-8400		
自己評価作成日	平成25年3月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年4月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

認知症があっても、住みなれた地域で継続して暮らせるよう地域に密着した施設として、良質なサービス提供が出来ることを目指しており、そのために職員一同、認知症がある利用者の方々への介護技術などの向上を図れるよう日々研鑽している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほのぼの苑五日市八幡（以下、ホーム）は、広島市佐伯区五日市の住宅街の一角にある開設2年目のホームです。近隣の民家と同じような色合いの建物は、平屋と一部2階建てで造られています。2つのユニットの間にある中庭では、花や野菜が育てられ、日向ぼっこやお茶会などで気分転換されています。 ホームでは、機能訓練室が設置されており、ホーム全体で室内競技などの行事にも利用されています。 入居者の外出支援、本人と共に過ごし合える関係作りなど、5項目にわたる運営に関する目標達成計画を立て実行し、業務改善に取り組まれています。 運営推進会議では、高齢者のケアに関する勉強会も実施し、地域や家族に周知してもらう取り組みにも努力されています。
--

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(東)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時の研修で職員全員で作った理念を、毎朝朝礼で唱和し、常に意識し、日々の介護にあたっている。	理念は、開設前にスタッフ全員で作成されました。地域と一緒に社会生活をしているという思いを大切にしながら、入居者が笑顔で過ごせるよう、思いやりのあるケアの実現に向けて努力されています。また、理念をホーム内に掲示し、毎日の朝礼で確認されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して、職員と利用者がともに町内清掃に参加したり、相互の行事にも声かけを行い、積極的に参加し合いながら交流を図っている。	町内会に加入し、地域の清掃活動に参加されています。神社祭りでは、ホームに神輿が周ってきたりして、町内会行事にも参加されています。また、近所の住民から花鉢の差し入れやボランティアの申し入れもあるなど、徐々に付き合いが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に一度運営推進会議に地域の方に参加して頂き、施設の理解をしていただいております。GHとしては、はいかい高齢者等SOSネットワークに登録しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で頂いた意見を職員間で討議し、サービスに活かすよう努めている。	会議メンバーは、町内会長、地元関係者、家族、地域包括支援センター職員で構成されています。会議では、運営状況の報告の他、地域行事の打ち合わせなども行われています。外出行事の回数について意見が出され、実施に繋げた事例もあります。会議を利用して、消防訓練の手順の確認や、口腔ケア、認知症等の勉強会も実施されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加依頼を行い、出席していただきながら助言等をいただいている。	運営推進会議で、年1回は市担当者の出席を得ておられます。また、市担当課へ毎回会議報告をされています。支援中の事故などについては、その都度、介護保険課へ報告されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い、拘束行為が人権侵害にあたることを職員に周知している。玄関の施錠は道路に面し、車の往来があり、入居者様の安全を考慮しやむを得ず施錠を行っているが、外出の希望があればいつでも開放している。又、中庭への扉については開放し、自由に出入して頂いている。	身体拘束をしないケアについて、年1回研修を実施し、職員は共通の理解を深められています。外出傾向のある入居者には、職員が付き添い散歩などで気分転換を図っておられます。また、ケアに関する態度や言葉かけなどを確認する「虐待の芽チェックシート」を活用し、行為がなかったかを毎日、職員全員が振り返りを行っておられます。	ホームでは、危険防止のため玄関の施錠をされています。安全管理には十分配慮する必要がありますが、今後は、鍵をかけない抑圧感のない自由な暮らしを支援するための工夫に取り組まれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が精神的に安定した状態で業務が遂行できるよう労働環境に配慮し、利用者とは良好な関係が築けていけるよう全員で取り組んでいる。スタッフ勉強会を開き、虐待について考え、スタッフ全員が周知するよう努める。日々の業務の中でインシデントを発見報告、分析を行い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度についての知識の習得は、研修や介護支援専門員を通じて常に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、介護支援専門員がホームの利用などについては契約時に利用者・家族の理解が十分に得られるよう説明を行い、対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	受付に、自由に意見や要望をいただけるような「苦情受付」を用意し、運営推進会議に於いても、要望があれば都度協議し運営に役立てている。	家族からの意見は、面会時や運営推進会議などで聞かれています。毎月の便りを送る際にも意見を聞くようにされています。家族から、外出行事の回数を増やしてほしいとの意見が出され、早速、ドライブや外食などの行事を実施されるなど、出された意見を運営に反映できるよう取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員ミーティング・月1回のスタッフ会議に於いては、本社より社長・統括の出席を仰ぎ、自由な意見交換を行い、職員の要望や意見が直接届くように配慮している。また法人全体の介護会議などでも各事業所間の意見交換を密に行っている。	毎日の職員ミーティングや、月1回のスタッフ会議で幹部職員も交えて、意見交換を行っておられます。インシデント原因と対策については、職員から協力医療機関に外科医も必要ではないかとの意見が出され、反映されています。勤務体制についても、職員の希望を優先できるよう配慮されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員個々の勤務状態を適切に判断し、昇給や人事等に反映させている。月初めに希望休を受け付け、次回のシフト表に100%反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修において、各個人のスキルに応じた研修をプログラムし、全体のスキルアップを目指している。また外部の研修参加は積極的に参加を促し、職員全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修会に参加することにより同業者同士の交流を積極的行ったり、区のCMの勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	短時間にホームに慣れていただけるよう入所前に面談など充分に行い、本人の意向を大切に不安なくホームに入所できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の家族の介護負担に対し十分に傾聴し、介護の困難さを理解し受容する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前・入所時に面談し、介護支援専門員がアセスメントを適切に行い、ニーズを分析し個々に対応したサービス提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は入所者と生活の場を共有する生活者の立場で関わりが持てるように、関係性の構築に努めている。食事作り、洗濯たたみ、掃除など利用者様が出来ることを積極的に声をかけ一緒に行ったり、野菜や花づくりを教えて頂き一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連携を密に行い、利用者に関する情報を共有し、本人と家族の関係が良好に推移するよう積極的に調整に図る。また各行事への参加を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事には積極的に参加できるよう配慮し、苑の行事にも都度案内し、出席を促し、相互の関係を構築できるよう努力している。	友人へ手紙を出したり、彼岸に墓参りに出かけたりする入居者もおられます。家族や友人による訪問があり、これまでの関係が途切れない支援に努めておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話については、困難な場面も多いが自然に会話が弾むような雰囲気作りを職員が支援している。体調に合わせ日々レク活動を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで退所となった場合でもできる限り本人の面会したり、家族の相談を受けたりと関係の継続を図るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表やセンター方式を用い、利用者一人ひとりの意向確認を行い利用者の意思の尊重を最大限に行い個別対応を心がけている。	センター方式を活用し、入居者の思いや意向の把握に努めておられます。入居者の毎日の生活の中で気づいたことや話したことなど、家族の思いも調整しながら取り組まれています。男性入居者と、日々の会話の中で家事が得意だったことが分かり、現在では、ホームの家事をお願いされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用い、分からないところはご家族様に確認をとり把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察・健康状態等を介護日誌に記入し、各利用者の生活リズムを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様とご家族様の意向やADLに合わせたケアプランを作成し、担当者会議にてご本人様・ご家族様・介護職員・ナースとともに検討し、ご本人様に即したケアプランを作るようにしている。	ケアプランの初回見直しは3か月後に実施されています。通常では、6か月ごとにケアプランの見直しが行われています。入居者や家族の意向などを聞き、得意なことが活かせるよう工夫されています。家事の得意な入居者は、ケアプランにも反映されています。モニタリングは、介護職員、ケアマネジャー、看護師などで実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ナース、介護職員、CMがそれぞれが利用者様の状況を個別に記入している。毎朝朝礼に気づきを報告し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今ご利用者様に何が必要かを考え、状況に応じご家族様の協力の下、面会・外出・外泊して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	かけはしの利用や馴染みのかかりつけ医など個々の利用者の要望に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	苑では、内科・外科・歯科の協力、病院を指定し、定期往診を実施して日々の健康管理を行っているが、本人・家族の要望で自由にかかりつけ医を決めていただいている。又協力医とは、24時間連絡がとれるよう緊急時の対応も行っている。	ホームの協力医療機関に変更する入居者もありますが、従来のかかりつけ医へ受診する入居者もおられます。かかりつけ医への通院は、家族の付き添いを原則に支援されています。病状や薬の注意事項等は、家族から確認されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日看護職員による健康観察を行うことにより小さな変化にも気づき早期発見となり、軽度の処置で済んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には連携医の紹介により急性期病院と連携を図っている。退院時の相談、アドバイス等の関係作りも出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に契約内容として重度化や終末期に対しての話し合いを行っている。必要時、入居者様・主治医・苑・ご家族との話し合いを行っている。	本人や家族の希望があれば、医師と連携して看取りを行う方針を持たれています。今後は、職員研修を重ね、チームで看取り対応ができるよう準備される予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、いつでもどの職員でも急変時に対応できるように苑内研修を実施し対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策マニュアルを作成すると共に全職員に周知を図っている。避難訓練は昼間の避難訓練はもちろん、夜間は夜勤者全員が行うよう毎月第2週に設定し周知している。	毎月避難訓練を実施し、入居者も参加されています。消防署の立ち会いもあり、指導を受けておられます。ホームには、スプリンクラーを整備済みです。	今後は、町内会や消防団との協同訓練が実施できるよう、いざという時の災害に備えて連携が図れる体制づくりに期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格を尊重し、利用者様のプライドを傷つけることのないように、笑顔で真心のこもった言葉かけを行っている。	職員は、理念に基づいて常に笑顔でケアに当たれるよう心がけておられます。言葉による拘束がないように、命令口調や指示的な言葉は使わないよう配慮されています。また、「虐待の芽チェックシート」を月1回記入し、職員はシートを毎日確認しながら、入居者の尊厳を守るための対応に取り組まれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	できるだけ本人の意思を感じとれるように常に声かけを行い、表情や態度に表れた意思を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフは常に心配り・気配り・目配りを行い、各利用者の生活のリズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧をされたり、好みの服を選んで頂いたり、ご家族様と連絡をとり合いながら支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さまの希望をきいてその日の献立をたてて一緒に作り、一緒に食べ共に片付けを行い、「食事すること」を楽しんでいる。	食事は、職員の手作りによる物を提供されています。食材には、畑で収穫した野菜を使ったり、入居者の希望を聞きながら近くのスーパーマーケットへ入居者と職員が一緒に買い出しに出かけられています。お寿司やパスタなど、希望に応じたメニューとなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	水分量は毎日記録して管理し、目標を1500mlとしている。年に一度は、運営推進会議において管理栄養士に食事に関するアドバイス、指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	スタッフが毎食後ケアを支援している。本人の力では口腔ケアをする事ができないところを介助し、援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握することにより、トイレ誘導を効率的に行い、リハビリパンツから布パンツへの自立支援を行っている。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い，自立に向けた支援に努めておられます。日中，紙パンツを利用していた人も布パンツを利用し，トイレでの排泄の支援に取り組まれています。夜間の誘導が難しい入居者には，ポータブルトイレを設置されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に食物繊維を多く含まれる物を取り入れ、腸のぜん動運動を活発にするお腹のマッサージや適度な運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	月～土はいつでも入浴できるように配慮し、少なくとも週2回以上は入浴していただいている。希望があれば、夜勤帯に於いての入浴も実施している。	入浴は，週2～3回午後を基本に支援されています。希望があれば，毎日でも入浴することが可能です。入浴時には，希望を聞きながら，なるべく同性介助の支援に努めておられます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律に睡眠時間を決めるのではなく、それぞれの利用者にあった生活時間に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	与薬に関しては3重のチェックを行い誤薬のないよう努めている。服薬後の体調変化があった場合等は、すみやかにDrに連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外食や季節行事など行い、全員で出掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の体調に応じて可能な範囲で散歩やドライブ、買い物など外出機会を設けている。	本人の希望や家族の要望を反映しながら外食、花見、買い物などドライブを兼ねて出かける機会を設けておられます。また、日常的な外出支援については、30分程度の散歩と中庭での気分転換を図っておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族の希望があれば、小銭程度の自己管理をされ、苑近くのお店に職員付き添いにて買い物に出掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人より希望あれば、苑の電話を使用して頂き、家族様といつでも連絡がとれるようスタッフ全員支援している。手紙もご本人が書かれ友人等に出されている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はすべてバリアフリーとし、各ユニットより中庭への自由な出入りでき、季節の花など植え、ゆっくりとくつろいでいただける空間づくりをしている。	建物南側には人工芝の中庭があり、花壇や畑があります。花や野菜の毎日の水やりは、入居者の日課ともなっています。中庭では、日向ぼっこやお茶休憩、夏にはソーメン流しをされています。室内の廊下は広く整備されています。また、機能訓練室では、レクリエーションなど行事を行ってられます。入居者は、椅子やソファなど思い思いの場所で寛いでられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室で1人で過ごされたいときは無理強ひせず、ご本人の意思に添ったケアに努めている。気心の知れた利用者様同士の楽しいコミュニケーションが取れるよう席の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はすべて自由に使っていただいております。馴染みのある家具や仏壇などを持ち込まれています。	居室には、ベッドと整理タンスが備えつけられています。家族と一緒に寛げるように、椅子やソファを置いたり、写真やテレビ、仏壇を持ち込む入居者もられます。入居者は、介護用スリッパを着用し、転倒防止にも役立っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは広く、手すりの設置をし、移動がスムーズに出来るスペースを確保している。できるだけ死角をなくしている。		

V アウトカム項目(東)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(西)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時の研修で職員全員で作った理念を、毎朝朝礼で唱和し、常に意識し、日々の介護にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して、職員と利用者がともに町内清掃に参加したり、相互の行事にも声かけを行い、積極的に参加し合いながら交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	2ヶ月に一度運営推進会議に地域の方に参加して頂き、施設の理解をしていただいております。GHとしては、はいかい高齢者等SOSネットワークに登録しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で頂いた意見を職員間で討議し、サービスに活かすよう努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への参加依頼を行い、出席していただきながら助言等をいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する研修を行い、拘束行為が人権侵害にあたることを職員に周知している。玄関の施錠は道路に面し、車の往来があり、入居者様の安全を考慮しやむを得ず施錠を行っているが、外出の希望があればいつでも開放している。又、中庭への扉については開放し、自由に出入して頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員が精神的に安定した状態で業務が遂行できるよう労働環境に配慮し、利用者と良好な関係が築けていけるよう全員で取り組んでいる。スタッフ勉強会を開き、虐待について考え、スタッフ全員が周知するよう努める。日々の業務の中でインシデントを発見報告、分析を行い、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度についての知識の習得は、研修や介護支援専門員を通じて常に活用できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、介護支援専門員がホームの利用などについては契約時に利用者・家族の理解が十分に得られるよう説明を行い、対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	受付に、自由に意見や要望をいただけるような「苦情受付」を用意し、運営推進会議に於いても、要望があれば都度協議し運営に役立てている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員ミーティング・月1回のスタッフ会議に於いては、本社より社長・統括の出席を仰ぎ、自由な意見交換を行い、職員の要望や意見が直接届くように配慮している。また法人全体の介護会議などでも各事業所間の意見交換を密に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、職員個々の勤務状態を適切に判断し、昇給や人事等に反映させている。月初めに希望休を受け付け、次回のシフト表に100%反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修において、各個人のスキルに応じた研修をプログラムし、全体のスキルアップを目指している。また外部の研修参加は積極的に参加を促し、職員全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修会に参加することにより同業者同士の交流を積極的に行ったり、区のCMの勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	短時間にホームに慣れていただけるよう入所前に面談など充分に行い、本人の意向を大切に不安なくホームに入所できるよう配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の家族の介護負担に対し十分に傾聴し、介護の困難さを理解し受容する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前・入所時に面談し、介護支援専門員がアセスメントを適切に行い、ニーズを分析し個々に対応したサービス提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は入所者と生活の場を共有する生活者の立場で関わりが持てるように、関係性の構築に努めている。食事作り、洗濯たたみ、掃除など利用者様が出来ることを積極的に声をかけ一緒に行ったり、野菜や花づくりを教えて頂き一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連携を密に行い、利用者に関する情報を共有し、本人と家族の関係が良好に推移するよう積極的に調整に図る。また各行事への参加を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の行事には積極的に参加できるよう配慮し、苑の行事にも都度案内し、出席を促し、相互の関係を構築できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話については、困難な場面も多いが自然に会話が弾むような雰囲気作りを職員が支援している。体調に合わせ日々レク活動を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで退所となった場合でもできる限り本人の面会したり、家族の相談を受けたりと関係の継続を図るようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント表やセンター方式を用い、利用者一人ひとりの意向確認を行い利用者の意思の尊重を最大限に行い個別対応を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用い、分からないところはご家族様に確認をとり把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子観察・健康状態等を介護日誌に記入し、各利用者の生活リズムを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様とご家族様の意向やADLに合わせたケアプランを作成し、担当者会議にてご本人様・ご家族様・介護職員・ナースとともに検討し、ご本人様に即したケアプランを作るようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ナース、介護職員、CMがそれぞれが利用者様の状況を個別に記入している。毎朝朝礼に気づきを報告し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今ご利用者様に何が必要かを考え、状況に応じご家族様の協力の下、面会・外出・外泊して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	かけはしの利用や馴染みのかかりつけ医など個々の利用者の要望に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	苑では、内科・外科・歯科の協力、病院を指定し、定期往診を実施して日々の健康管理を行っているが、本人・家族の要望で自由にかかりつけ医を決めていただいている。又協力医とは、24時間連絡がとれるよう緊急時の対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日看護職員による健康観察を行うことにより小さな変化にも気づき早期発見となり、軽度の処置で済んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要時には連携医の紹介により急性期病院と連携を図っている。退院時の相談、アドバイス等の関係作りも出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に契約内容として重度化や終末期に対しての話をしている。必要時、入居者様・主治医・苑・ご家族との話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルがあり、いつでもどの職員でも急変時に対応できるように苑内研修を実施し対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対策マニュアルを作成すると共に全職員に周知を図っている。避難訓練は昼間の避難訓練はもちろん、夜間は夜勤者全員が行うよう毎月第2週に設定し周知している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の人格を尊重し、利用者様のプライドを傷つけることのないように、笑顔で真心のこもった言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	できるだけ本人の意思を感じとれるように常に声かけを行い、表情や態度に表れた意思を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スタッフは常に心配り・気配り・目配りを行い、各利用者の生活のリズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧をされたり、好みの服を選んで頂いたり、ご家族様と連絡をとり合いながら支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さまの希望をきいてその日の献立をたてて一緒に作り、一緒に食べ共に片付けを行い、「食事すること」を楽しんでいる。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量は毎日記録して管理し、目標を1500mlとしている。年に一度は、運営推進会議において管理栄養士に食事に関するアドバイス、指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	スタッフが毎食後ケアを支援している。本人の力では口腔ケアをする事ができないところを介助し、援助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握することにより、トイレ誘導を効果的に行い、リハビリパンツから布パンツへの自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事に食物繊維を多く含まれる物を取り入れ、腸のぜん動運動を活発にするお腹のマッサージや適度な運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	月～土はいつでも入浴できるように配慮し、少なくとも週2回以上は入浴していただいている。希望があれば、夜勤帯に於いての入浴も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一律に睡眠時間を決めるのではなく、それぞれの利用者にあった生活時間に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	与薬に関しては3重のチェックを行い誤薬のないよう努めている。服薬後の体調変化があった場合等は、すみやかにDrに連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外食や季節行事など行い、全員で出掛けしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の体調に応じて可能な範囲で散歩やドライブ、買い物など外出機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人・ご家族の希望があれば、小銭程度の自己管理をされ、苑近くのお店に職員付き添いにて買い物に出掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人より希望あれば、苑の電話を使用して頂き、家族様といつでも連絡がとれるようスタッフ全員支援している。手紙もご本人が書かれ友人等に出されている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間はすべてバリアフリーとし、各ユニットより中庭への自由な出入りでき、季節の花など植え、ゆっくりとくつろいでいただける空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室で1人で過ごされたいときは無理強ひせず、ご本人の意思に添ったケアに努めている。気心の知れた利用者様同士の楽しいコミュニケーションが取れるよう席の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はすべて自由に使っていただいております。馴染みのある家具や仏壇などを持ち込まれています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは広く、手すりの設置をし、移動がスムーズに出来るスペースを確保している。できるだけ死角をなくしている。		

V アウトカム項目(西)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑五日市八幡

作成日 平成 25 年 5 月 28 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	玄関施錠しないケアの取り組み。	玄関施錠をしない自由な暮らしの支援。	事務所内に, スタッフがいる時間帯の開放に取り組む。	1年
2	13	地域との災害対策の連携体制づくり。	地域との災害対策の連携強化。	地域の自主防災訓練に参加, 招致。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。